

## 「おしゃれ」

李 珍京(李・ジンキョン)

- 1 . はじめに
- 2 . 緒論
- 3 . 対話相手
- 4 . 対話
- 4 - 1 対話まとめ
- 5 . 結論

## はじめに

こんにちは。好きなことでもありながら悩んだりもすること、「おしゃれ」を今回のレポート主題として取り上げることになりました。この機会のおかげで今まで自分が考えていた「おしゃれ」ということについてもう一度考えなおしてみることができたと思います。

## 緒論

高校2年のときから、私は日本やイタリアの雑誌を読み始めていました。最初は単純にモデルさんが好きで、好きなモデルを見るために雑誌を読んできましたが、どんどん読む雑誌の量が増え、ファッションの知識がたまり、本来の目的だったモデル鑑賞ではなく、「おしゃれ」のため雑誌を読むことになってしまいました。何が流行って何のブランドの新作があついのかなど洋服のおしゃれについてはいつでもしゃべれたし、自分がおしゃれな洋服を着ていなくても知識的な面では結構自身がありました。そして知らないブランドとかを覚えるため男の服でも頑

張って勉強していました。

こんな私でしたが、今年法律懇談会夏合宿をきっかけで「おしゃれ」について考えなおすことになりました。法律懇談会には懇談会だけでなく、フットサルサークルも一緒に入ってる先輩がいて、この先輩は映画や本、美術館に行くことなど、私とまったく同じ趣味や好みを持ち主でした。一日目の飲みの後、この先輩と二人で話す機会がありました。二人で好きな画家や映画について夢中になって話しました。あのとき先輩は私にこんなことを言っていました。「しばらくは洋服などにお金使うよりは映画とか旅行とかにお金使いたい。」内面的なおしゃれについて話した先輩は本当にかっこよかったと思います。洋服などに頑張るより先輩のように内面的なおしゃれを目指すほうが本当におしゃれな人に見え始めました。確かにどれだけデイオールオツムを着ても前ディレクターであったエディ・スリマンになるとは言えません。同じ服を着てもエディがほかの人と違う理由は、彼が大人気のブランドを創造したそのことにあり、彼の独特な考えであると思います。結局一番おしゃれな人だと認識されている人こそ、内面的に充実した人であることが分かりました。

## 対話相手について

今回のテーマのために私が選んだ対話相手は同じスペイン語クラスだったYさんです。Yさんは普段からおしゃれで、私とはいつも洋服のおしゃれやお買い物について話していました。典型的なおしゃれの彼女は私のテーマについてどう考えて、そしておしゃれについてどう思っているのかが知りたくて対話相手としては最適だと思い、じっくり話してみました。

## 対話

まず私のテーマについて一緒に読むことから始めました。下は対話の一部です。

私- 一応テーマはこんなもんだけど、どう思う？

Y- いいね、おしゃれ。でも難しいなあ。確かに見た目よりは内面に充実するほうがいいと思う。

私-それがなかなか難しいからなあ。

Y-だね、でも私は別に洋服とかお買い物とか、本当こんなものが楽しめる人なら、別に見た目的なおしゃれでもいいと思う。あれもあれなり自分の充実な内面的楽しさになるかも。でも問題は、うちらを含めて大体な人々が他の人の目を意識しすぎる傾向だね。

私-私もそう思う。確かに外面的なおしゃれでも本当に自分が趣味生活とかで楽しむなら本当にいいこと。でも問題はそれだね。私、洋服によって一日のテンションが決まるの。

Y-分かる！大したこともないのに！で学校遅刻したりさぼったり、、、服が決まらないともっと重要なことも放置しちゃう。

私-私もそんなことよくある。

Y-なんかね、我々と服の立場が逆転したような、、、

私-そうだね。これはリア充じゃなく、むしろ内面破壊的なものってゆうか、、、

Y-うん。人って見た目で決めるもんじゃないのに。知らないうちに他の人のことも見た目で決めたりしてるのかも知れないね。怖い。

私-なんか考え間違えてるような気がする。もっと人生楽しまなきゃなのに。洋服に捕まえて、、

Y-そうそう。もっと自分の心が豊かになることがしたいの。

。

### 対話まとめ

Yさんは私が追求する内面的なおしゃれもちろん重要だが、見た目的なおしゃれも自己満足のためなら別に悪いとは思ってないと言いました。見せるためではなく、自分の楽しさや満足感のためお買い物したり、着回しなどが趣味であれば、趣味生活を楽しむこととして洋服にハマるのも悪いとはいえないということでした。確かに自分の趣味であればそれを楽しむことによって人生は豊かになるわけで、それがせめて洋服だとしてもある意味ではいいのかも知れませんが、しかし問題は、自分の見た目に頑張りすぎたせいで、自分の生活に悪影響を与えていることでした。Yさんと私の場合、朝に何を着ればいいのか迷いすぎて遅刻することも結構あったし、着た洋服が気に入らなかつたら一日中テンションが下がったりすることも多かったです。話し合いながら同じ経験をしたことで二人ともびっくりしました。趣味だったはずのことが、いつの間にか生活リズムが崩れるまで悪化してしまったのです。もはや自己満足ではなく、二人とも他人の目を意識しすぎて困っていました。

二人ともいつも洋服の話ばかりしてるし、他の友達から「この服可愛いね、いつもどこで買ってるの？」などの言葉を聞かれると次の日何を着るか思い込んじゃうし、確かに問題のある生活をしていました。

見た目の考えに追い込まれてむしろ人生楽しんでないと、ここで二人の意見が一致しました。より心の豊かさが欲しいことや、見た目から脱出して本当に自分がやりたいことがしたいと、

二人とも思いました。(洋服などに毎月使うお金を節約すれば本当いろいろできるはずです)

### 結論

今回の「おしゃれ」というテーマで話し合いながら、自分の生活に問題があることや、本当にいい暮らし方はなにかについて考えてみることができました。洋服は自分の表現できるものでもあり、洋服とのつながりを切ることは無理だと思います。しかし自分の表現以外に、「見られる自分」のため頑張りすぎるのはこれから治さなければならない点だと思いました。心の余裕を持って、人を見た目ではなく中身で接することが重要であると、そして見た目に頑張らなくても自分のことが楽しめることが今から頑張るべきのことであることが分かりました。

### おわりに

今回のレポートの作成を通じて、自分が抱えている問題についてより真剣に考えることができました。より発展した姿とは言えませんが、2009年になってもっと大人になったような気がします。そして普段友達とか仕事とか運が良くて大変だったことはあまりなかったですが、今回の授業を通じて自分がどれだけ日本語が下手だったのかが分かりました。皆さんの真剣さを見ながらいつも適当な自分も少しは真剣になった点、そしていつもつまらない授業はさぼったり、行っても友達とおしゃべりする私ですが、今回の授業は結構自分のことを考えなおしてみる機会だったので、なんか特別さを感じました。専攻科目ではなくても今からこのような面白い授業にたくさん参加できたらいいなと、思いました。

そして世界にはいろんな人がいるということが分かりました。皆それぞれ考えてることが違うし、観点も違うし、そして周りの環境も異なるから生じる様々な観点の差を実感しました。もちろんこの中には自分の考えとまったく同じのものもあるし、理解できないほど異なったものもあります。しかし多様な観点と接してあるままの他人の観点を受け入れることが大事だということが分かりました。いつまでも自分一人で生きていく世界でないということが。

以上